

作曲専攻作曲コース 3 ポリシー

ディプロマ・ポリシー

■ 人材育成目標

作曲専攻作曲コースでは以下に挙げる人材の育成を目指しています。

- ・作曲家・指揮者・演奏家・教育者等、創作能力を生かした活動を通して、社会に貢献し得る人材
- ・国際的視野に立った芸術・研究活動の展開を目指す人材
- ・明確な目的意識と強い気概、実力を伴った人間性豊かな人材

■ 卒業までに身につけるべき資質・能力

- ・作曲家としての専門的な能力
- ・豊かな感性と、それを表現する技術をもって確かな音楽作品を創作するための表現技法
- ・将来の幅広い活動を支えるための応用力
- ・時代を読み解き作曲家として社会に貢献する姿勢

■ 学位の授与方針と評価方法

最終年次の「卒業作品」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を与えます。

- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・卒業作品の評価・・・専門実技の学修成果を総合的に審査する「卒業作品」では、複数の教員が様々な視点から個々に採点し、それらの集計結果により評価を決定します。

カリキュラム・ポリシー

■ 教育課程の編成方針

個人指導を中心とした専門実技指導、グループ・ゼミや試演会での創作作品の検証、国内外の音楽家による特別講座、公開講座、レクチャー・コンサートの開催等により伝統的西洋芸術音楽の方法論から先端的音楽についての分析法、他領域とのコラボレーションの仕方、邦楽・民族音楽へのアプローチ方法、現代社会とアートの関わり方等まで学ぶことができるようカリキュラムを編成しています。

■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

- ・徹底した個人指導を中心に、時代やジャンルを問わず様々な音楽の分析（アナリゼ）や音楽理論を学びつつ、即実践である創作（作曲）へ応用し、グループ・ゼミなどで検証していきます。
- ・4年の間に独奏曲から管弦楽曲までの規模の作品を書くことが課され、作曲家としての専門的な能力を養います。また電子音楽や複合領域的な作品を制作する場もあり、多様な作品を生み出す環境にあります。これらの作品は「作曲作品演奏会」など、実際に演奏される多くの機会も提供されます。
- ・この他、国内外の音楽家や外国人客員教授による公開講座やレクチャー・コンサート、提携校への派遣留学制度などにより、国際的な学修経験を積む機会が設けられています。

■ 教育課程の評価方針・方法

- ・専門実技試験では、各学生の作品を複数の教員が様々な視点から個々に採点し、それらの集計結果により評価を決定します。
- ・その他の授業科目については、各科目の担当教員がシラバスに定めた方法によって評価します。

アドミッション・ポリシー

■ 求める人物像

- ・創作研究に対する、謙虚且つ積極的な姿勢を持っている人

- ・感性、知性、表現力、独創性、柔軟性、好奇心、国際性等を持っている人
 - ・音楽の創作において必要な基礎的能力を身に付けている人
- 入学前に身につけてほしい学習成果
- ・基本的かつ十分な作曲能力。特に楽典に基づいた正しい楽譜の読み書きができること、自己の表現したいものを適切な技術で書き表すことができること、和声、対位法等の理論をある程度習得していること
 - ・音楽の基礎的能力（楽曲分析、ソルフェージュ、ピアノ実技等）
 - ・西洋音楽史的な素養、特にバロックから近代までの基本的な楽曲を網羅的に知っていること
 - ・基礎的な学力、語学力（英語）
- 入学試験の基本的な方針・考え方
- 【一般選抜】
- ・専門実技試験の結果に加え、音楽の基礎的能力試験（ソルフェージュ、ピアノ）と大学入学共通テスト（外国語、他）の結果を総合して合否を判定します。
 - ・専門実技試験では、作曲家としての資質、技術、表現力をみます。受験者一人一人の作品を複数の審査員が様々な視点から個々に採点し、それらを集計した結果により評価を決定します。
- 【総合型選抜】
- ・書類審査（音楽活動記録、調査書他）の後、専攻実技試験、口述試験の結果を総合して合否を判定します。